

県立郡山商業高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

平成27年7月19日から31日までの13日間、1年生5名、2年生8名、3年生3名の計16名が、オーストラリアのシドニーにホームステイしながら、ティンデル・クリスチャン・ハイスクールの生徒達と交流しました。

実施概要について

現地のコーディネーターによる英会話のレッスンを中心に、日本語を選択学習している生徒への日本文化紹介（折り紙・篠笛・習字・抹茶・浴衣の着付け）、スクールバディの授業への参加、ランチタイム・ティータイムでの交流を行いました。フェアウェルパーティーでは、よさこいの演舞を行いました。世界遺産であるシドニーオペラハウスやブルーマウンテンズ見学、アボリジニ文化センターでの文化体験等も行いました。

福島の実況発信や現地におけるエネルギー学習について

シドニーオリンピックパークにおけるウォーターマネジメント施設を見学し、オーストラリアで積極的に取り組んでいる水資源の確保および水のリサイクルシステムや利用実態等について学習しました。空港や公共施設のトイレのリサイクル水の利用や、各家庭においても、雨水を雨樋からタンクに貯蔵し活用する方法などを見ました。

また、ホスト校の高校2年生の社会の授業で、震災後の福島の実況についてのプレゼンテーションを行いました。内容は大きく分けて、①福島・郡山について、②東日本大震災・福島第一原発の事故、③私たちの現在の生活状況、④学校生活についての4分野でした。地震や原発に関するスライドの時には口を手を当てながら見ている生徒や身を乗り出して見ている生徒もいました。今回のプレゼンテーションを聞いて、地震のない国オーストラリアに住む生徒からは、「地震の威力と恐ろしさを感じた」、「現実とは思えない」などといった声と同時に、「あなたたちの家や家族は大丈夫か?」、「津波被害はなかったのか?」、「自分たちにできることはあるのか?」などの温かい声を聞くことができ、生徒たちもその声に笑顔で応えていました。また、各ホームステイ先で福島の復興に向けての姿を話題にし、色々と励ましの言葉を頂きました。

実施後の成果について

オーストラリアの文化・自然に触れ、生活様式の異なる環境の中でホームステイをしたことにより、多種多様な文化、生活感、居住空間、食文化などを実体験の中から学び取ることができ、異文化に対する興味を持つとともに自国の良さを再認識することができました。今回の研修を通し、「思いを伝えられない」といったもどかしさを多く感じたことにより、語学力の必要性を痛感し、語学力の習得に対する志気の高まりが見られました。生徒一人ひとりが広い視野の中で、将来への夢や希望を持てたことは大きな収穫です。

